

### 1 体験プログラム

# 日本画ってなあに？ ーみて・さわって・かいてみようー

- 会期** 2020(令和2)年4月11日(土)～7月31日(金)  
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月18日～5月10日臨時休館。なお、5月12日～5月22日は岡倉天心記念室を開室し、体験プログラム「日本画ってなあに？」は休室。
- 主催** 茨城県天心記念五浦美術館
- ポスター** B2
- チラシ** A4
- 開催日数** 76日
- 体験者数** 3,470人
- 体験料** 無料
- 内容解説**

2019(令和元)年11月から3月にかけて開催し、好評だった体験プログラム「日本画ってなあに？」。空調設備工事のため休館するまでの間、引き続き開催した。ここでは、日本画の画材や用具について実物を用いて解説し、日本画がどのように制作されるのかを紹介した。また、絵巻や掛軸の複製にて巻き方や扱い方を体験するコーナーも設けた。様々な角度から日本画に親しむことで、日本画の新たな魅力を発見してもらえた。

- 担当** 村山佐知子(首席学芸主事) 横山智絵(首席学芸主事) 木内智美(主任学芸主事)

#### ●実施した体験内容

- ・絵巻を鑑賞しよう  
複製の絵巻「鳥獣人物戯画」を巻きながら鑑賞する体験。絵巻の鑑賞の仕方や、扱い方を紹介した(27名参加)。
- ・和紙や絵絹をさわってみよう  
日本画の基底材であるいろいろな和紙や絵絹にさわるとの体験。種類によって変わる厚みや質感を実物を通して紹介した。
- ・屏風の仕組みを知ろう  
空間や用途に合わせて屏風を自由自在に変形させ、生活の中で工夫していた様子を紹介した。
- ・岩絵具の原石をみよう  
日本画に用いられる岩絵具がどのような原料から作られているか、粒子の大きさによって色がどのように変化するかを紹介した。
- ・五浦の作家になりきろう  
明治時代、日本美術院研究所で岡倉天心の指導を受けた横山大観ら五浦の作家のように、畳の上で絵を描く姿勢をとって記念撮影ができるコーナーを設置した。
- ・鑑賞コーナー(構図を考えよう、季節を感じよう)  
複製画によりクイズ形式の鑑賞ができた。

#### ●新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止になった体験内容

- ・岩絵具の粒子をみてみよう  
岩絵具の粒子を顕微鏡で見る体験。天然の岩絵具と人工の新岩絵具の粒子の違いについて見比べることができた予定であった。
- ・掛軸をかけてみよう  
複製の掛軸を用いて、掛軸をかける体験。持ち方や巻き方などスタッフが教える予定であった。
- ・触って感じるコーナー(土日祝日の午後1時から3時まで)  
天然岩絵具の原料である鉱石を紹介したり、手にとってもらったりできる予定であった。
- ・いろいろな筆を使ってみよう  
連筆や面相筆などの描き心地を試す予定であった。
- ・実技コーナー  
簡単な日本画制作の体験。作品はお持ち帰りいただく予定であった。

<内容>

- ・4月～5月 彩色を楽しもう(色鉛筆+顔彩)  
配色を楽しみながら、色鉛筆と顔彩で塗る予定であった。
- ・6月～7月 鳥獣人物戯画を描こう(墨)  
「鳥獣人物戯画」のワンシーンをはがき大の和紙に描く予定であった。

### ●実施した4月～6月のイベント

- ・天心記念五浦美術館プレゼンツ「おうちで楽しもう」  
おうち時間に美術に親しんでいただけるツールをホームページにて紹介した。一部は館内配布を行った。

<内容>

- ・天心さんぬりえ(館内配布枚数437枚)、アマビエ天心ぬりえ(館内配布枚数631枚)  
当館キャラクター「天心さん」や「アマビエ天心さん」を好きな色で塗った。
- ・なぞって国宝①(館内配布枚数801枚)、なぞって国宝②(館内配布枚数846枚)  
当館作成のオリジナル下絵を用意して「鳥獣人物戯画」(甲巻)の一部をなぞった。
- ・はんこde屏風(HPからダウンロード)  
「鳥獣人物戯画」(甲巻)に登場する図案や当館オリジナルモチーフをWordで組み合わせて屏風を作った。

### ●新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止になった、4月～6月のイベント

- ・茨城県警察音楽隊ふれあいコンサート  
出演：茨城県警察音楽隊  
日時：5月17日(日)午後2時～(40分程度)  
会場：エントランスロビー(入場無料)
- ・オープンワークショップ「日本画の絵具で花を描こう」  
日時：5月4日(月・みどりの日)、5日(火・こどもの日)午後1時～4時  
会場：講座室  
対象：小学生以上
- ・アートツアー for kids みんなでつくる展覧会  
美術館職員が行う小中学生向けのワークショップ。参加者はアーティストになりきって楽しく作品をつくり、完成後は美術館に展示する予定であった。  
内容と開催日：「大きな和紙にのびのび描こう！」5月16日(土)午後1時～3時(90分程度)  
「作品を展示しよう！」5月23日(土)  
作品展示期間：5月24日(日)～5月31日(日)  
会場：講座室  
対象：小中学生、2日間とも参加できる方8名(参加無料)
- ・大人のための学芸員体験「我が家のお宝調査会」  
参加者が所蔵している日本画(掛軸、額装作品)を持ち寄り、館職員(学芸員)の指導のもと作品の写真撮影や寸法の計測を行い、学芸員の仕事を体験する予定であった。  
日時：6月6日(土)午後1時30分～4時30分(3時間程度)  
会場：講座室  
対象：調査したい作品をお持ちの方10名(参加無料)



ポスター B2



チラシ A4

●実施した体験の様子



絵巻体験



和紙や絵絹をさわってみよう



屏風の仕組み



岩絵具の原石をみよう



なりきり体験



構図を考えよう

●予定していた体験



岩絵具の粒子をみてみよう



掛軸をかけてみよう



触って感じるコーナー



いろいろな筆を使ってみよう



彩色を楽しもう(実技コーナー4~5月)



墨で描く体験(実技コーナー6~7月)

## 2 岡倉天心記念室

- 概要** 多方面にわたる岡倉天心の生涯や業績を書簡や遺品など貴重な資料によって紹介するほか、天心の指導を受けて近代日本美術の発展に大きく貢献した五浦の作家たちの作品を紹介した。

### (1) 五浦の作家たちの作品展示

茨城県近代美術館等が所蔵する横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山ら五浦の作家たちの作品を選び、展示した。

※空調不具合のため、令和2年度は複製画による展示。

### ●会期及び出品目録

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(縦×横)cm	備考
<b>■第1回</b>		<b>2020(令和2)年4月11日(土)～7月31日(金)</b>					
1	横山大観	1868-1958	瀟湘八景〈漁村返照〉	大正2～3年	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	複製画
2	横山大観	1868-1958	瀟湘八景〈平沙落雁〉	大正2～3年	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	複製画
3	横山大観	1868-1958	瀟湘八景〈洞庭秋月〉	大正2～3年	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	複製画
4	横山大観	1868-1958	瀟湘八景〈江天暮雪〉	大正2～3年	絹本・彩色・軸装	131.0×50.3	複製画
5	菱田春草	1874-1911	黒き猫	明治43年	絹本・彩色・軸装	151.4×51.0	複製画
6	岡倉天心	1863-1913	ロバと人物	明治37年	絹本・彩色・額装	49.0×86.3	複製画

### (2) 資料テーマ展示

天心及び五浦に関わりのあるテーマに関して調査・研究した内容を、収蔵資料や解説パネルにより紹介した。

- テーマ名** 岡倉天心全集のあゆみ(前年度から引き続き開催)

- 会期** 2020(令和2)年4月1日(水)～7月31日(金)

- 内容解説** これまで、天心の全集はたびたび編纂されてきた。1922(大正11)年に日本美術院より刊行された『天心全集』が最も古いものである。昭和に入ると、天心全集は相次いで編纂されるようになり、より一層内容が充実していく。1935(昭和10)年、天心没後20年を記念して『岡倉天心全集』(聖文閣)が刊行され、さらに4年後には六藝社から全集が出版される。1944(昭和19)年、横山大観らが中心となった岡倉天心偉績顕彰会編集の『天心全集』の出版が計画されたが、これは敗戦によりわずか2冊の刊行をもって頓挫した。本展示ではこのような天心全集の歴史について、戦前期を中心に紹介した。

- 展示資料**
  - ・『天心全集』1923(大正12)年、日本美術院(見返し原画：横山大観、下村観山筆)
  - ・『岡倉天心全集』第1巻、1935(昭和10)年、聖文閣
  - ・『天心全集』1944(昭和19)年、岡倉天心偉績顕彰会(見返し原画：小林古径筆)

- 担当** 塩田 稔(学芸員)